

第六期長期計画・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート  
第22回実施分（令和5年11月16日開催） 自由記載欄  
【傍聴者 会場6名・オンライン21名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者3名記載）

- ・ 給食無償化政策ですが、副市長の発言によって、政策目的が不明瞭で、政策立案手続きを逸脱し、それゆえに、財政負担および費用対効果に関する考察がほとんどなされてないまま、任期途中の辞任を心に決めていた市長のイニシアティブによって、拙速に推進されている実態が、白日のもとにさらされましたね。  
おそらく、この問題、市長選のアジェンダとして「政治化」することでしょう。  
長期計画を尊重し市政を進めてきた武蔵野市の民主政の将来が、委員会の先生方の「矜持」にかかっていることを、今回の委員会のやりとりで、ひしひしと実感しました。
- ・ 「妊娠前」の女性（および男性も？）に対する行政的サポートの議論ですが、実社会で一般的に使われている「妊活」と「妊娠前」と、言葉の意味するところが、違うのか違わないのか、そのところが良く分かりませんでした。  
言い換えれば、妊娠前にある女性を対象とする政策の話なのか、「妊娠前」の状況にある当事者を対象とする政策なのかが、明確でないということです。  
言葉の定義が明確でない政策提言を盛り込むのは、拙速に思いますが・・・。
- ・ 何回か傍聴ができていなかったのですが、給食無償化についての議論が積極的な書き込みに方向に変わっていることに、驚きと不思議さを感じました。無償化も大事な点だと思いますので、議論を興味深く傍聴しておりました。私が現時点で給食の課題に思っている点は、この4～5年で学校に通いつらくなっているお子さんがとても増えています。あるお家のお話を聞くと、子どもがいつ学校に行っても給食が食べられるようにと、給食費を払い続けておられたと聞きました。このように在籍をしていますが、武蔵野市のおいしい給食が届いていないお子さんが沢山います。学校によっては行事に合わせて給食(自校式)がお弁当の形で出ることがありました。このようなお弁当の形にしてみたり、学校の場所や地域の場所を工夫したりして、給食が食べられるか、またはそれにかわるものが届けられる等の方法はないでしょうか。
- ・ 小学校の部活動と課外活動が混同しているようにお話を聞いていて思いました。表現の仕方は小学校によるのかもしれませんが、子どもが通っていた小学校では、吹奏楽は任意の活動で(中学校でいう部活動の位置づけ)、時程が終わった放課後や朝練のある活動でした。それとは別に「クラブ」というのがあって、これは学校の時程内の活動でした(「委員会活動」も同様)。「合唱」は文化祭などの発表会の時に練習をされていて時程内の活動でした。

課外活動には修学旅行も入るといことがお話しに出ていましたが、セカンドスクールなども課外活動になると思います。これらの活動への人の配置数が少ないという現状があるので、拙速な移行はしないとしても、人の加配は増やす必要があります。

- ・ 今や給食無償化問題は、計画行政と市民参画をリンクさせ、先進的な市政を進めてきた武蔵野市の民主政の根幹を破壊しかねない、クリティカルなアジェンダになっていると思います。何よりも、その先導役が、選挙で選出された市長であり市議会議員である事実ほど、アイロニカルで哀しいことはありませんし、来たる市長選においては、おそらく「過剰公約の政治」の典型的争点となるような気がしてなりません。

その意味で、今回の委員会での長時間に亘る議論、とりわけ、市長（および市議会多数派）の意を汲まざるをえない行政官と委員の皆様とのやり取りが、委員の皆様が武蔵野市民としての「矜持」と「自負」に裏打ちされた、まさに真剣勝負であったこと、さらに、そこから導き出された結論が、文字通り、（財政的にも、質の高い給食の維持という政策目的の上でも）「デモクラシーの赤字」の創出に歯止めをかける内容となったことは、喜ばしく、嬉しい出来事でした。

## ○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。（傍聴者4名記載）

- ・ 前回委員会の傍聴者アンケートに答える形で、都市計画担当委員から、境公園の問題に関する詳しくまた有意義なコメントを頂けたことが、今回のセッションの重要な成果の一つであったと思います。前回の市長の意見交換では、答申案に記載することを取り止めたはずの 이슈について、具体的選択肢を示しながら（そもそも関心があるはずもない）市長の見解を問う担当委員の意図が不明でしたし、実際、市長からは、中身ゼロの「前向き（つばい）」発言しかえられませんでした。

今回の担当委員のご発言によって、委員自ら積極的かつ継続的に調査を行い、事実認識を更新し、問題意識を深めておられたことが大変よく分かりましたし、次期長期計画における主要な課題として取り組むべきというご提言、大変うれしく拝聴いたしました。戦前の秋本敏男町長の時代に企図された主な都市計画のうち、唯一残された境公園の計画が、その意図を継承しつつ、ほぼ一世紀を経て実現することを、願って止みません。

- ・ 中島飛行機のくだりは既に市の米国国立公文書館での調査事業で攻撃目標となったことが分かっているのではないのでしょうか。ぼんやり書いて後から変な参照の仕方をされるといけないので、明確に書いたほうがいいと思います。TARGET 357 というふるさと歴史館の企画展で紹介されていた記憶があります。下記サイトでも「爆撃に関する任務」とあって攻撃目標となっていたことが分かります。同じ資料だとは思いますが。

<https://www.nichimyus.jp/2012/09/13/%E4%B8%AD%E5%B3%B6%E9%A3%9B%E8%A1%8C%E6%A9%9F%E6%AD%A6%E8%94%B5%E9%87%8E%E8%A3%BD%E4%BD%9C%E6%89%80/>

「Mission Report 26, Nakajima A/C Engine Works Musashino Plant, Tokyo, Feb. 19, 1945; 497th

Bomb Group, Records of the Army Air Forces, Record Group 18; National Archives at College Park, College Park, MD. 1945年2月19日東京中島飛行機製作所爆撃に関する任務報告書表紙。米国国立公文書館所蔵。」

- ・ 今回の策定委員会で、第七期長期計画に持ち越しの点はどれがそれにあたりと確認されたかがよくわからなかったのです。

今回の策定委員会で加筆いただきインクルーシブ教育について、共生社会の実現を目指すもので、その実現に向けると記載がされました。そして、その実現に向けるとして、インクルーシブ教育システムの充実を図ることにとどまりました。子どもの権利が守られ、インクルーシブ教育への転換と議論が進むように、引き続き持ち越される論点としてお願いします。そして、インクルーシブ教育には通常学級のあり方の転換も必要になってくるため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の担当部署には、教育支援課だけでなく教育指導課含めた教育部署全体で取り組んでいただけるようお願いいたします。

- ・ 境公園の件です。

時間をかけての議論を経て答申書の本文からは削除されることになりましたが、本日配布された答申案において公表された付表2「施策体系図」の「5都市基盤分野 体系図 1(2)」には「事業」として「境公園都市計画の見直し」という項目が引き続き明記されていることを確認いたしました。

それを見て、前回の委員会における都市計画担当委員のご発言の趣旨が、ほぼ理解できたように思います

要するに、

- 1) 前々回の委員会における当該委員と市長との意見交換は、
  - ・ 「見直し」のための具体的選択肢を委員が提示し、(辞任直前の)市長から肯定的回答を引き出すこと、
  - ・ そのやり取りを議事録に残すこと  
が目的であったこと
- 2) 前回委員会における当該委員のコメントは、委員自ら積極的かつ継続的に調査を行い、事実認識を更新し、問題意識を深められたことからのご発言であり、その意味するところは、境公園都市計画を、次期長期計画における主要課題として位置付けるべきところのご提言であったこと  
が、わかりました。

戦前の「武蔵野都市計画」実施の過程で、「東京緑地計画」の「緑地」として、当時の住民の方の理解と協力を得て買収することのできた民有地が、80年以上もの間、手付かずで放ったらかしになってきたことをむしろ奇貨として、「ひろっぱ」でも「サクラ」でも「ケヤキ」でも「市民農園」でもない、かつて国木田独歩が描いた「武蔵野の景観の美」の再生をモチーフとした公園づくりを、「境公園」事業には期待しています。

- ・ 策定委員会も残すところ後1回ですね。がんばってください。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。

また、委員名については削除しています。